



東日本の矯正施設で初となる総合防災訓練を実施！

《 府中刑務所総合防災訓練 》

— 災害時を想定した地域貢献のカタチ —



令和2年1月31日（金），府中刑務所において，住民参加型・多機関連携の総合防災訓練が実施されました。かねてから，同刑務所は府中市と防災協定を結んでおり，災害発生時には地域住民に施設と敷地を避難所等として活用していただく取組を促進していました。

実際に，昨年10月12日に上陸した台風19号により多摩川が氾濫する

おそれが高まり，流域の住民9万5千人に避難勧告が発令された際，同刑務所においても府中市の要請に基づき臨時避難所を開設し，避難者を受け入れた経緯がありました。

今回の訓練は，その際に表面化した様々な課題を踏まえた上で，大規模災害発生時に地域住民及び関係機関と迅速かつ効果的な連携体制が構築できるよう，平時から互いの顔が見える関係性を築き，それぞれの特性や役割を確認しておくことで有事の実効性を高めるという目的の下に実施されました。



救出救助訓練

当日の訓練には，同刑務所，警視庁災害対策課，同第3機動隊，府中警察署，府中消防署栄町出張所，府中市医師会，府中市歯科医師会，府中市晴見町自治会，同栄町自治会が参加しており，第一部訓練は地震災害を想定したもので，第二部訓練は地震災害に起因する火災を想定したものでした。



訓練状況を確認している様子



警察犬による要救助者捜索訓練



府中刑務所警備救援対策本部設置



トリアージ訓練

前半は、同刑務所が府中市役所や医療機関と連携し、避難者を受け入れる避難所開設訓練やトリアージ訓練が行われ、関係機関との連携の在り方や避難者への対応が確認されるなど、地域住民や参加機関にとって有為な訓練となった上、同刑務所が災害時の避難所として活用できることを地域社会に知っていただく機会とりました。

そして、後半は、同刑務所が警視庁（災害対策課/第3機動隊/府中警察署）や東京消防庁（府中消防署栄町出張所）と連携し、周辺地域の要救助者を救出する訓練が行われ、警視庁からは警察犬が投入されるなど本格的な訓練が行われました。中でも、同刑務所の警備隊員が警察や消防と連携して行った要救助者（地域住民対象）の救出訓練や消火訓練は、他機関と連携することの有用性を実感できる訓練内容となりました。午後零時30分から開始され、約3時間30分にも及んだ訓練は、事故もなく無事に終了し、刑事施設における災害時の地域貢献の在り方を示すものとなりました。



救出救助訓練



救出救助訓練



警視庁SRTとの事前訓練

